

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173200585		
法人名	有限会社 美深シルバー支援		
事業所名	グループホーム ひふか つつじ		
所在地	中川郡美深町字南町25番地		
自己評価作成日	平成29年 9月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その季節の食材や畑で採れた野菜を使った食事と手作りのおやつ。利用者様本位の自由な暮らし。病院への通院は当施設が無料で対応しています。
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvoSvoCd=0173200585-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年11月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年に開設したグループホームひふかは、薪ストーブの柔らかなぬくもりや、利用者が生きてきた時代を懐かしむような古民具などを飾った共有空間など、利用者の生きてきた時代を大切に、利用者の今を支えるための工夫を行っている。運営法人は、職員に広い視野と専門性を持った介護ができるよう育成に取り組んでいる。シフト前後の残業の廃止など、ワークライフバランスにも配慮し、仕事とプライベート両面が充実することで良い仕事ができるという方針のもと、職員の個別の悩みや相談にも対応している。職員もそれに応え、理念の実践に向け、一人ひとり違う、個性豊かな利用者の支援についてミーティングを重ねている。家族に対しても、一緒に利用者を支えるため、初回の介護計画説明時に介護計画の意味を説明し、日常生活の中で、利用者の楽しみの実現や個々の力の発揮を大切にしていることを伝え、協力関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を解りやすくまとめ、地域との関係性を大切にしている。理念についても職員全体で話し合い、ケアに反映されるよう確認している。	開設時の理念は、大切な部分を職員が理解し、共通目標としやすいよう、三項目を定めている。理念は事業所内に掲示しており、常時目にするのと同時に、会議などの際に取り上げ意識付けをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入して地域とつながり交流を行っている。散歩や買い物などにでかけ、近所の人たちと挨拶を交わしている。	町内会に参加している他、共用型の認知症デイサービスを行っており、地域から10名の登録がある。地域を招いての行事も行っており、30名ほどの参加者と交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の中でも認知症ケアの啓発に努めている。人材育成の貢献として、実習生の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域住民、行政、他施設、などの参加があり、現在取り組んでいる内容などを報告し意見をもらっている。	運営推進会議を定期的に行き、事業所の運営状況や課題となっていることについて伝え、助言を得ている。会議に家族の参加がないが、家族会の会長が参加するなど意見を取り入れるようにしている。	家族の参加が得られておらず、議事録の事業所での設置もされていません。まずは会議について家族に知ってもらう取り組みとして、議事録を送付するなどをを行い、意見の聴取や参加の拡大の工夫を進めていくことが期待される。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町が行う会議に参加するなど、日頃から連絡を取り、事業所の運営に関して理解してもらえよう取り組んでいる。	事業所では、行政のアドバイスを受けながら防災マニュアルを作成している。各戸に設置されている防災端末から、事業所の人材募集の案内を流してもらうなど、運営について協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者個々の状態に合わせ見守り、介助をミーティング、申し送りなどで考慮している。転倒、転落の危険がともなう場合は家族と話し合い、承諾を得ている。	身体拘束の必要性のある利用者はいないが、一時的に必要となった場合を想定し、身体拘束の解除に向けた話し合いを行っている。利用者の自由な生活の実現で課題となるリスクについては、事前に家族と話し合い、検討を行っている。	身体拘束を行わない介護について、個別の事例をミーティングで話し合いを行っているが、全職員に対し、身体拘束について体系的に整理する機会を定期的に設け、知識を持ち身体拘束を行わない介護への取組を継続していくことが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りやミーティングなどでケアを振り返り、不適切なケアについて話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	町が主催する成年後見制度の研修に参加、パンフレットなどで職員が周知できるようにしている。必要と思われる利用者には相談、支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、支援に関する考え方や取り組み、医療連携体制など十分な説明と話し合いを行っている。契約解除の場合も今後の対応を家族と相談している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にはお便りや訪問時には常に問いかけ、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。意見、要望等はその都度、ミーティング等で話し合い改善に向け取り組んでいる。	利用者の意向を受け、レクリエーションに反映したり、家族にも事業所としてどのような運営を希望するかを問いかけている。家族の会や全家族に事業所の様子を伝える便りを送付するなど、意見を出しやすいよう工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、問いかけたり、聞いたりするようにしている。時には個別で意見や要望を聞くようにしている。	ユニットごとのミーティングでは、チームとして働く職員同士の気持ちを共有し、課題を解決していけるよう取り組んでいる。職員一人ひとりの特徴を伸ばすようなアドバイスも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握し、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外の研修を積極的に行い、研修報告を提出することで全スタッフに伝達できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の研修会への参加などで交流する機会を作り、質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があったときには、必ず本人も交えて家族との会話の中でその人の求めていることや思い、不安を理解するよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時などに家族の方と日常生活で困っていることや要望などを聞いている、その後も数回、聞き取りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が何を必要としているか状況等を確認し、本人らしく過ごせるよう配慮している。また、必要に応じて他のサービスにつなげるなど対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、人生の先輩として協働しながら和やか生活が出来るように場面作りや声掛けをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日常の生活や職員の関わりがわかるよう、その都度話をしている。また、毎月手紙で本人がどのように過ごしているか知らせている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お祭りや町の催しなどに参加し、住み慣れた地域生活から切り離さないよう支援している。また、街に出たとき、知り合いとお話されているときは急かすことなく行動できるように支援している。	地域の神輿が立ち寄るなど、地域行事への参加を行っている。また家族等の来訪時には、食事の提供や事業所への宿泊が可能となっており、利用者との交流の機会を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	中央にくつろげるスペースを設け、体操やゲームなどを取り入れ皆で楽しく過ごせるよう配慮している。また、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が必要となり退所された方も、お見舞いに行くなど関係を断ち切らないよう努めている。必要に応じて情報提供や相談に応じていくよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で言葉や表情からその人の思いを押し測り、確認するようにしている。コミュニケーションの図れない人には、これまでの生活歴や家族からの情報を得て行っている。	職員は日常的に利用者と一緒に過ごす時間があるため、会話や様子を身近で感じながら意向を把握している。利用者の希望などは介護日誌に記載し、介護計画の作成などにも活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りや家族、知人からの話を聞きその人らしく生活できるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの心身状況に合わせた生活に配慮し、毎日の介護記録を活用し、状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや希望を尊重し、スタッフ間で話し合いを持ち、その人らしく日常生活を送れるよう個別性に配慮した介護計画を作成している。	家族には初回作成時に介護計画作成の流れを説明し、家族と協力して利用者を支援していく姿勢を伝えている。利用者担当職員が計画作成担当と話し合い、本人が安心する言葉や状況を盛り込んだ計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一人ひとりの介護記録に食事、水分量や健康状態、気づきを記載し、職員で共有し、介護計画の見直し、評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎、買い物など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント等を企画し、利用者に喜んでもらえるよう工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を聞いて適切な医療が受けられるように支援している。	通院同行は職員が行っており、利用者の様子を医師に伝えている。生活状況を伝えることで適切な薬の処方につながっている。また家族にも受診報告を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で利用者の体調、身体の変化・表情の変化の早期発見に取り組、受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、受け入れ先と情報交換、毎日の面会、時には付き添い安心して治療できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、家族と話し合いケアプランに取り入れるよう努めている。	家族から、最後まで事業所での生活を継続して欲しいという希望がある。往診医の確保など、地域医療が整っていないこともあり、できる範囲を家族に伝え理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルにそって応急手当、初期対応を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定しての避難訓練や連絡網による訓練も行いすぐに対応できるよう努めている。	夜間想定避難訓練を年2回実施しており、その際に職員の呼集訓練も行っている。自然災害の警報は防災端末や携帯電話に配信される情報を元に判断し、避難先の検討を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考え、さりげない言葉かけや対応に配慮している。	馴れ合いとならないよう、声掛けの仕方や対応などについて、ミーティングで確認している。利用者の排泄パターンの確認等も他の利用者にはわからないように行っている。	認知症の進行により、トイレのカーテンを閉められなくなった利用者の対応などに配慮を検討することが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが思いや希望を表しやすいように声かけしたり、自分で決められる場面を作ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気持ちをくみ取り、レクリエーションや散歩など本人のペースを大切に柔軟な対応を取っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望した理美容院でカットしたり、外出が難しい場合は訪問サービスを利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員も同じ食事を同じ食卓で摂っている。また、個々の食形態にも配慮している。	同法人の高齢者住宅と同じ献立となっているが、ユニットごとに調理し、それぞれの入居者の好みや食べやすさに配慮した工夫を行っている。職員と一緒に食卓を囲み、会話しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や一日の食事量を把握し、本人の好きなものや食べやすいものを出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き誘導や本人の力に応じた歯磨きの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃から排泄間隔や排泄サインを観察し、さりげない声掛けを心がけ、自立に向けた支援をしている。	ほとんどの利用者がオムツやパッドを使用しているが、トイレでの排泄ができるよう支援している。夜間はセンサーマットやポータブルトイレを活用し、安全にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取り、野菜、果物、豆類など便通を促す食品をとるよう心掛けている。また、身体を動かすことの大切さを意識している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが個々の健康状態をその日のバイタルチェックで入浴の可否を見極めている。入浴剤を使用し楽しんでいる。	安全に入浴を楽しめるよう、利用者ごとに注意している。週4日が入浴日となっており、利用者あたり2回の入浴ができるようにしている。午後からの時間帯で、生活の一連の流れの中で自然に入浴に気持ちが向かうよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。就寝前は穏やかな雰囲気を作り、気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の処方箋をファイルに保管し、職員がわかるように徹底している。また、処方の変更があった場合は申し送りなどで全職員に周知し、状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に合わせて、家事手伝いの役割を提供、ホールでのゲーム等。また、誕生日には献立を考え楽しく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけるようにしている。春・秋は公園へ出かけたり、家族と外出し共に過ごされることもある。	利用者にはできるだけ屋外に出て欲しいという職員の思いがあり、散歩や事業所の畑などに誘って外気に触れる機会を多く持てるようにしている。通院の際などに立ち寄ってほしい場所のリクエストに応じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお金を使うことはないが、少額を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望によりその都度電話利用できている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自由にくつろげるようリビング中央にソファを置き、窓側には鉢植えやタペストリーで雰囲気づくりに努め、心地よく過ごせるようにしている。	共用空間は広く、渡り廊下でユニット間がつながっている。薪ストーブに大きな鉄瓶がかけられ、適度な湿度や温かさが確保されている。装飾のオイルランプや大画面テレビでのカラオケなど、それぞれが気に入ったソファで寛ぎ楽しむことができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にくつろげるスペースをつくったり、気の合った利用者同士でくつろげる場所を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望に応じ使い慣れた家具や馴染みの物を置いて頂き居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室には手洗い用の洗面台が備えられており、カーテンやクローゼット、冷蔵庫など利用者それぞれが生活に必要なものを持ち込んでおり、家族写真などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできること、わかることは自立を促し、見守りの中、安全に支援するよう心掛けている。個々の生活状況を把握しミーティングにて情報交換を行い混乱のないよう支援に努めている。		